



診断ふくい

第29号

【発行】一般社団法人 福井県中小企業診断士協会 会長 津田 均

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂 3-7-1-16 福井県産業情報センタービル内 TEL 0776-67-7447 FAX 0776-67-7429
ホームページ <http://www.sindan-fukui.jp/> Eメール info@sindan-fukui.jp

【発行日 平成 28 年 11 月】

地方創生の中で「経営発達支援計画」の把握と「事業性の評価」を！

会長 津田 均

皆さんに“診断ふくい”（今年第2号）をお届けできることを喜んでおります。

さて、今年月に当協会が開催した地方創生シンポジウムは、支援機関、行政機関を中心に多くの方に参加していただき、盛大に執り行うことができ、関係者の方々に感謝しております。

福井県を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。そんな状況下、実際に北陸新幹線の九頭竜川橋梁工事が始まり、中央自動車道の延伸工事や2018年国体に向けた大会施設が県内各地で完成するなど、福井県の活性化につながる大きな流れを身近に感じられるようになってきました。県内各地でその地域なりの流れが感じられているものと想像します。

さて、このような状況において中小企業診断士はどのような視点で地方創生に向き合うべきでしょうか。地域において我々診断士は多方面で活躍が期待されていくものと確信しております。それは地域が地域固有の地域資源を把握し、どう生かすかという課題に対して、我々診断士こそが客観的に地域の現状と地域資源のあり方を分析、判断していくことを得意としており、必ず有効に対応できると考えているからです。

我々はこれまで中小企業ばかりを見て、あまり地域を意識してこなかったと思います。ひるがえって中小企業を取り巻く環境としての地域をもっと強く認識する必要があります。そのために福井県内で市町が作成する基本計画や商工会議所、商工会が作成した「経営発達支援計画」にも目を通してほしいと思います。

（インターネットで簡単に検索できます）

これらの計画は、地域の現状と課題に合わせ、小規模事業者に対する創業や事業承継などへの取り組み、地域経済の活性化に資する取り組みなどが載せられています。支援機関としての人材育成や連携先としての中小企業診断士などがこれらの計画をベースとして事業が計画され、我々診断士への業務依頼につなが

っています。これらの計画、情報を事前に確認しながら、広く地域の関係者（関係機関）と話し合い、地方創生、地域の活性化策と一緒に担って行きたいと考えています。

一方で、金融機関の方向性は急激に変化してきました。基本的な考え方は地方創生に資する取り組みをすることこそが、金融機関の生き残り策というものです。必死に企業業績を向上させるために日夜努力している地域の中小企業を活性化させることが人口減少を最小限にし、地域を元気づけることにつながり、金融機関も存在価値が高まると言う訳です。資産評価から事業性評価など、これらの内容は、最近ベストセラーになっている「捨てられる銀行」（著者 橋本卓典 講談社現代新書）に詳しく載っています。是非一読してほしいと思います。

話は変わりますが、新しくなった中小企業診断士バッジを例会など各行事の際に配布中です。このバッジは知名度向上、地位向上を目指すシンボルとなるもので、中小企業を取り巻くすべての関係者、機関に対して方向性を指し示しています。自信と誇りを持って付けて行きましょう。

最後に、昨年川嶋会員（理事 総務委員長）が、診断協会シンポジウムで最優秀賞の中小企業庁長官賞を受賞しました。また今年も加藤会員（理事 資格更新研修委員長）の論文が、本選が行われる上位4人に残りました。11月8日に東京で行われるシンポジウムにおいてプレゼンします。2年連続して入賞したことを素直に喜んでおります。是非誰か3年目にもチャレンジしてほしいと思います。



委員会活動報告

◆事業推進委員会



委員長 竹内 真一

今年の事業推進委員会は、「営業」と「新事業の開発」の2本柱に取り組みます。

事業推進委員会は、会社で言うと「営業部隊」です。

営業の仕事は種を蒔いて需要を喚起しその需要を刈り取ることです。

昨年度までは依頼の仕事を確実に実行する「待ちの姿勢」でしたが、今年度は積極的に営業・PR活動を実施し「攻めの姿勢」に転じます。具体的には、営業・PR活動を通じて関連機関等の悩み・問題点を把握し、これを解決する企画を提案する「ソリューション営業」を展開します。

新事業の開発のメインは、チーム支援です。チーム支援とは、地方創生の流れの中で「大きな課題で諦めていたこと」「どうして良いか見えなかったこと」等のニーズを事業として開発し、これまで取り組んできた各種連携および協会会員同士の連携作業で解決していく事です。

そのターゲットとしては、企業・支援機関・金融機関に新たに行政を加えPR活動を行います。

今後は、多彩な専門分野・得意分野を有する中小企業診断士が所属する「福井県中小企業診断士協会」の総力を結集し、様々な問題を解決していきたいと思えます。

◆創業支援委員会



委員長 出倉 裕

創業支援委員会は、少人数の委員会ですが、創業を計画している人、事業を始めて間もない人を対象に、委員会としてどのような活動ができる

かを検討中です。本年度から立ち上がった委員会なので、まだ手探り状態ですが、委員の皆さんの意見を取り入れながら活動していきたいと思っています。

商工会議所等の支援機関と連携した、創業者向けセミナーの事業が進行中です。

1. 敦賀市創業塾 (9/25～10/30、5回シリーズ実施中)
2. おおい町創業セミナー(11月～、2回シリーズ)
3. 越前市創業セミナー (29年1月～、5回シリーズ)

様々な分野の専門家が揃う当診断士協会では、セミナーや相談会等を通して、創業者の熱意に応えることが可能です。創業セミナー、相談会の内容や進め方についてのご相談にも対応しますので、関係機関からのご連絡をお待ちしています。

◆調査研究委員会



副会長・委員長 竹川 充

今年度より「事業推進部」「調査研究部」「組織運営部」の3部門体制となりました。副会長として、「調査研究部」をお預かりしますが、「事業推進部」

が「攻め」なのに対して、「調査研究部」は「守り」にあたります。すなわち、中小企業診断士としての資質・実力を高めることが仕事となります。「攻め」て仕事を受託してきても実力が認めなければ「次の」仕事にはなりません。「調査研究部」では会員診断士の知識・ノウハウの向上や人間関係力の向上を目的に事業を進めていきたいと思えます。

「調査研究委員会」では、本部の受託事業へ申請しましたが叶いませんでした。したがって、自主事業として会員診断士の知識レベルの向上に資する調査研究事業を行いたいと思えます。今年度は、「事業承継」をテーマに、中小企業診断士として事業承継の支援を行ううえで知っておきたい基本的知識や、中小企業診断士の活躍の可能性などについて調査・研究活動をすすめたいと思えます。調査・研究結果については成果物として報告書にまとめるとともに、例会等において成果発表会を行いたいと思えます。

調査研究委員会は、中小企業診断士としてのレベルアップを図る場であり、研修や視察の域を超えたところにある、重要な役割を果たしています。中小企業診断士の資質を高めることは、結果的に地域の中小企業の業績向上に結び付くものでなくてはなりません。調査研究委員会では、そうした「地域経済」の下支え役としての基礎体力向上の場と位置付けて活動してまいります。

◆福祉ビジネス研究会



委員長 中川 義崇

介護事業及び障害事業に関する研究会を開催し、会員のコンサルティングスキルを高めるとともに、公的診断への協力や個別企業への支援を行います。

これらの活動を通じて、地域福祉の向上に貢献していきたいと考えています。

毎月1回、平日夜の開催としており、短期に成果が出るよう密度の濃い内容となっています。

介護分野の今年度は、介護事業の基礎知識を学ぶとともに、我々中小企業診断士はどのように関与し貢献していくべきかを特定するところまで取り組みます。将来的には（来年度以降）、会員が提供できるもので、かつ、市場の課題を解決できるようなノウハウを一つ体系化したいと考えています。

障害分野の今年度は、障害者就労支援事業のビジネスモデルや法規制等の基礎知識を習得し、さらに県内の就労支援施設をチームで支援する方法でコンサルティングスキルを高めることに取り組みます。

就労支援施設の移動販売や小規模介護施設のキャリアパスなど、研究テーマは、焦点を絞りつつ、かつ、市場に求められているニーズに沿った内容にしていきます。そのノウハウを体系化することにも取り組み、再現性を高め、会員が広く社会貢献できるよう上げていきたいと考えています。

◆売上拡大研究会



委員長 土肥 勝

売上拡大研究会は、会員の売上拡大のコンサルティング能力の向上を図る目的で、昨年春にスタートしました。

現在協会の会員が中小企業診断士協会から受託している

事業の多くは、中小企業の経営改善ですが、経営改善の理由の多くは売上減少によるものです。

企業経営においては、売上利益が上がれば90%以上の表面的な問題は解決します。逆に言えば、それ以外の対処方法で何かが変わることは、ほとんど無いのが現実です。

大事なことは、表面的な問題に表面的に対処すれば、必ず問題は悪化するということです。その企業の問題の本質に到達するためには、自分の中に「理想的な企業像、コンサルティングの理想像」という、体系化されたコンサルティング手法を持つことこそ、まず第一歩です。これなくしては、すべてが対処療法になります。経営者は、長年の実務経験で培ってきた本物の知恵やノウハウを欲しています。

当研究会の目的は、まず自分のコンサルティング哲学を持ち、個々人の特徴を活かした体系化されたコンサルティング手法を各人が築き上げることです。

売上拡大の範囲は広く、マーケティング・補助金支援・営業マン指導まで幅広く研究しています。

このため当研究会は、中小企業診断士以外の専門家の参加も積極的に受け入れ新しい情報・知識に触れる機会を増やしています。

このように売上拡大研究会は、中小企業診断士の大きな課題である売上拡大の研究活動を行い、会員の知識とコンサルティング能力の向上を行っています。

◆総務委員会



委員長 川嶋 正己

総務委員会のミッションは、社団法人という一つの法人格を持った福井県中小企業診断士協会を自

立した組織へと成長させていくことです。そのために3つのテーマを掲げて活動しています。「事務局機能の強化」「福井県中小企業診断士協会のビジョンづくり」「組織としてのルール（規定等）の整備」です。

会員数、開業診断士数、受託事業等が順調に増えつつあり自前の事務所の開設も検討される中で、当協会の運営をスムーズにし、さらなる成長に向けての土台を固めるべく、事務局担当者等をメンバーとして三役と連携を図りながら活動を進めています。

今年度は、独立した組織として必要最低限の規定類の整備を目標としています。同時に、事務局の仕事の役割分担や効率化を進めることで、三役並びに事務局の負担を軽減したいと考えています。

また、福井県中小企業診断士協会の目指すべき姿を描くビジョンの骨格を固めることも大きな目標です。事務所開設のあり方も含めたビジョンを検討し、来年度以降、それに向けて当協会全体がベクトルを合わせて進めるようにしたいと思っています。

◆例会委員会



委員長 谷川 俊太郎

中小企業診断士としての知識習得・支援能力向上及び診断士同士の交流を目的とした月例会を企画する委員会です。中小企業診断士としての知識習得・支援能力向上を目的と

した研修、県内中小企業の新分野や海外進出の取り組みについて事例研修を月例会として開催します。加えて、各研究会、各中小企業診断士の発信の場としても月例会を活用し、中小企業診断士のプレゼン能力の向上を目指す場としても月例会を活用してもらおうべく、多様な中小企業診断士に講師の依頼を行っていきます。

情報が氾濫し、技術も日進月歩の現在、診断士としての知識習得・支援能力向上は欠かせません。また様々な専門分野を持つ診断士が協力して事案にあたることで診断士の活躍の場は広がります。そのために

必要なことが交流です。例会委員会では月例会を通じて、その目的を果たしていきます。

私達中小企業診断士は、プロとしての能力を高めることを欠かすことはできません。また、クライアントの様々な問題を解決するためには、中小企業診断士同士の連携も欠かすことはできません。例会委員会の月例会を通じて、当協会の会員診断士は能力向上と会員同士の交流に努めています。

◆会員研修・視察委員会



委員長 吉田 裕晃

中小企業診断士は経営コンサルタントとして幅広い活動に対応できる専門的知識や能力の活用が社会的に期待されており、求められるスキルも益々

高度化しています。

当委員会では時代のニーズに合った支援スキルアップのための研修会や先進事例の視察会を実施し、会員の診断スキル向上を図っていきたく思います。今年度はプレゼンテーション研修や支援先の経営者の能力を引き出すためのコーチング能力研修を予定しています。また北陸新幹線開業に向けた地域づくりや観光活性化に向けた事例を学ぶ国内研修、また県内企業の海外展開事例と課題を学ぶための海外視察を実施します。

今後の予定として11月24日の午後6時半からスキルアップ研修会を開催します。このセミナーでは問題の本質や解決の糸口を経営者から引出し解決に繋げるコーチングについて学ぶ内容となっており、経営者へのアドバイスはもとより、企業内でも部下や若手への指導に役立つ内容となっておりますので、皆様のご参加をお待ちしています。

当協会では時代のニーズに応えられるよう常に自己研鑽の場を設けて診断士のレベルアップを図り、地域中小企業の強力なバックアップを行っていきます。

協会活動のご紹介

「地方創生」シンポジウムで協会活動を紹介 (地域連携委員会)

5月20日(金)午後、福井商工会議所ビルを会場に、「連携が生むブレークスルー もの・ひと・まちづくり」をサブタイトルに、会員診断士や診断士協会がこれまで取り組んできた支援事例や調査研究内容など「地方創生」に向けた提案発表を行うシンポジウムを開催し、県内各自治体関係者を中心に、支援機関、金融機関、企業経営者など140名が参加した。

第一部では、昨年度の中小企業経営診断シンポジウム(東京)で中小企業庁長官賞を受賞した「支援機関連携『福井モデル』の経営革新支援～エコファームみかた 新タイプ梅酒『BENICHU』開発の事例～」について発表が行われた。



当協会の川嶋正己会員を中心に支援にあたった支援機関のメンバーと支援先企業のエコファームみかたの新屋明社長をゲストに迎えて、インタビューを交えながら、新商品のコンセプトづくりや販売促進策、売場づくりなど試行錯誤の模様を含め紹介し、売上や利益向上の成果についても説明をいただいた。

第二部では、会員診断士4名から「ひとづくり」、「まちづくり」、「ものづくり」をテーマに、支援事例や連携事例の発表を行なった。

「ひとづくり」では、竹内真一会員から、敦賀商工会議所と連携して実施した「創業塾」の開催事例等を発表。引き続き、竹川充副会長から、「事業承継と後継者」をテーマに事業承継やM&Aの支援に向けた視

点について報告が行われた。

続いて、「まちづくり」では、平成20年度から当協会が取り組んできた「観光活性化」に向けた調査研究について嵯岡伸行副会長より説明を行い、勝山市より当協会の提案を踏まえ具体的に進めている現状について報告が行われた。

最後に、「ものづくり」では、坂井市で取り組まれている「辛み蕎麦」をブランド化し、これを活用した街おこしについて加藤永俊会員と仕掛け人の後藤氏を招き、B-1グランプリへの思いと取り組みについて説明が行われた。

シンポジウム終了後は、支援機関や自治体関係者の皆さんと交流会を開催し、発表内容への質問が寄せられ、各地域で取り組んでいる活動へのアドバイスを求める声が聞かれた。また会員診断士の自己紹介も行われ、今後につながる交流が行われた。

県内企業の経営革新事例を学ぶ

(資格更新研修委員会)

9月11日(土)、平成28年度の理論政策更新研修を福井県産業情報センタービルマルチホールにて開催し、過去最高の113名の受講者が参加した。

第一部の「中小企業への振興施策」では、中小企業基盤整備機構北陸本部経営支援部長の今岡増夫氏とプロジェクトマネージャーの大村啓氏を講師に迎え、中小機構の海外展開支援について、総合的な経営支援、計画的なハンズオン支援、ネットワークを生かした高度・広域な支援体制について解説が行われた。また、中小機構のハンズオン支援事業について、支援体制や専門家継続派遣事業のプロセスについての説明、圧着端子製造会社の管理会計と個別原価を柱とした経営改善事例等の具体的事例などを紹介した。

第二部の「地域資源を活用した企業間連携による新製品開発の取り組み」では、県内企業2社から講師を招きの取組み事例を紹介した。

事例①としてケイター・テクシーノ(株)企画室長の川崎樹一郎氏から、「デザイン&機能性を追及した登山ズボン『TOZANGO(トザンゴ)』の開発の取組みについて説明が行われた。

国内外のブランドにアウトドアパンツ用の素材は供給しているが、ケイターとして登山用パンツのブランドの位置づけはされていなかった中で、いっその事自分たちで登山用パンツを作ってしまうということで事業展開。室長以外は全員女性という開発チームで、服飾専門学校卒業生もいる、デザイン、パターン、サンプル縫製などは自分たちで組み立てできる、スポーツ素材開発のスペシャリストもいるという中で、女性の要求に特化したレディース登山用パンツの開発までの経緯を紹介するとともに、開発後の大きな課題であった販路開拓に向けて楽天のアウトドアショップを経営する県内企業の(株)カンパネラ社との連携についても紹介した。

事例②では、(株)カンパネラ代表取締役の平岡和彦氏から「撥水性アウトドア折り畳み傘『ヌレイン』の開発」について説明が行われた。

インターネット販売から他社との差別化を図るためオリジナル商品を開発し、メーカーとしての機能を持ちたいと取組みを開始。ふくい産業支援センターの移動相談会でケイター・テクシーノ(株)と業務提携し、「ふくい逸品創造ファンド事業助成金」を利用し、折り畳み傘を開発。高密度織物 ACQUALE を使用した超撥水性で、自動開閉式折りたたみ式機能があり急な雨でも片手で操作できる特徴を持った製品づくりなど、直営店を持ち顧客の意見を聞きながら進めた開発の経緯について紹介が行われた。



第三部では、当協会会員のふくい産業支援センター主任川嶋正己氏を中心に取組んだ県内企業の経営革新支援事例について、支援先企業である(株)エコファームみかた代表取締役の新屋明氏も交えて、説明が行われた。

県内支援機関連携による「組織横断型」で「企業支援チーム」を構成し、若狭町の第三セクターで梅酒や梅加工品の生産販売を行ってきたが赤字経営が続き、町の補助金も廃止される中で、梅酒メーカーとしての自立を迫られていたエコファームみかたを支援先として選定。これまでのPB商品2リットル紙パックを廃止し、新開発の「BENICHU」ブランドを提案。展示会・商談会などにも積極的に出店したことで、支援当初と比較し、平成26年度の年間売上高は3年前に比べ133%に伸び、うち梅酒売上高は175%に伸び、実質黒字を確保することに成功したことなど、具体的な成果を含め「経営革新」の内容について詳しく紹介した。

北海道新幹線開業に向けた対策を調査

(会員研修・視察委員会)

9月22日～24日の2泊3日で、3月に北海道新幹線が開業した新函館北斗駅や函館市内の観光施設及び新青森駅並びに青森市内の観光施設を訪問する視察会を開催し、津田会長はじめ会員7名が参加した。また、23日には、(一社)青森県中小企業診断士協会の蝦名会長はじめ役員8名の皆さんと夕食懇談会を開催し、協会活動や受託事業、両県の経済や企業活動の状況などの情報交換とともに交流を図った。



函館市では、旧函館公会堂や教会が集まる元町地区、赤レンガ倉庫群のあるベイエリア地区、五稜郭及び函館奉行所、函館山からの夜景見学を行った。

特に、五稜郭の中にあり、平成22年に復元完成した新たな観光スポット「函館奉行所」では、復元に当時使われていた越前赤瓦が使用され、福井県瓦工業協

同組合が 38,000 枚の作成と施工にあたるなど、福井県と深いつながりを再発見することができた。



観光施設の整備では、五稜郭タワーが平成 18 年に建て直され、また、バイエリアの金森倉庫群は飲食店や土産物店、工芸品店などに中をリノベーションして使われるとともに、周辺地域でも、古いレンガを外壁に利用した赤レンガ倉庫が新たに整備され、こちらも飲食店などに活用され、バイエリア周辺全体の集客増につなげている。

2 日目には函館駅から新函館北斗駅を經由して、北海道新幹線に乗車し新青森まで移動したが、北海道新幹線は、「はやぶさ」が 1 時間にほぼ 1 本が運行され、それに併せて函館駅からアクセス快速電車が運行されて、利便性を確保し、また五稜郭駅や新函館北斗駅では立体駐車場が建設され、地元利用者の利便性を高めている。



最終日は、青森市内のねぶたを展示、紹介する青森市文化観光交流施設「ワ・ラッセ」、JR 東日本が整備運営する物産販売所にシールドレストランを併設する「A-FACTRY」、青函連絡船の歴史を紹介する青森市港湾文化交流施設「八甲田丸」、青森市を一望でき

る展望台を持ち会議室や物産販売施設を併設する青森県観光物産館「アスパム」を見学。さらに市民の買い物場となっている古川市場を訪問した。

青森市の特徴は、これらの主要な観光客向け施設が青森駅から徒歩圏に整備されていることで、郊外にある「三内丸山遺跡」や「棟方志功記念館」、「県立美術館」などの観光施設と新青森駅、青森駅をつなぐアクセスバスが 5 コース、13 便運行され、観光客への利便性を提供している。

今回の訪問を通し、改めて観光地を繋ぐアクセスの重要性、公共施設を整備する際の配置、民間の観光物産施設の整備ルールづくり、新幹線の整備に合わせたアクセス列車や駐車場などの二次交通の整備など、多方面で感じることの多い視察であった。

視察レポートは、当協会 HP に掲載していますので、こちらをご覧ください。

中小企業経営診断シンポで加藤会員が入賞 (会員研修・視察委員会)

11月8日、東京で開催された中小企業経営診断シンポジウムで、当協会の加藤永俊会員が発表した「紙1枚にまとめる経営革新支援フレームワーク～事業計画の見える化と実践的ロジカル思考技術の習得～」が中小企業診断協会会長賞に入賞し表彰が行われた。



このシンポジウムでは、毎年（一社）中小企業診断協会が全国の中小企業診断士協会会員を

対象に、経営革新支援事例の論文を募集し、書面審査で選ばれた上位4名が審査員や聴衆の前で発表を行うもので、昨年の川嶋会員の中小企業庁長官賞につづき入賞を果たした。

また、翌日は、東京近郊の新業態店や再開発、商業施設を見学会を実施し、武蔵小杉、銀座など今注目を集めるスポットを訪問した。

新入会員紹介

天田 琢哉

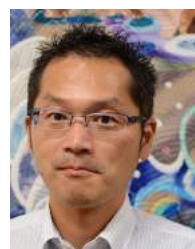
今年4月に登録し、早速、補助金申請等のお手伝いをさせて頂きました。そして、その中で診断士として学ぶべきことが山積みであることを実感しました。現在は、従前からの業務のため名古屋市在住(福井出身)ですが、協会のイベントへは可能な限り参加し、協力できればと考えております。資格取得を通じた社員教育を提案できる診断士を目指したいと考えております。例えば商工会議所さんで実施している検定試験は、社員教育に有効活用できるものばかりです。『資格・知識で考えも行動も結果も変わる。』中小企業にとって重要な資産であるヒトを大切に考え、伸ばす提案ができる診断士を目指したいと考えております。プロコン養成塾に携わり、受験から登録までのサポートを通じ、協会の会員を増やしていきたいと考えております。



吉村 文男

平成6年に武生商工会議所に入所以来、商業に携わる方のお手伝いを主にしてまいりました。中小企業大学の養成課程の受講チャンスをいただき、資格を取得。現在に至っています。以下の2点に強みを発揮できる診断士を目指しています。

(1)起業の際に的確なアドバイスができる診断士。(2)財務分析を基本に、経営計画の精度を高めることのできる診断士。入会して創業に関わるお手伝いができればと考えております。



山本 雅之

平成18年に登録し、この度加入をさせていただくことになりました。金融機関勤務を経て、平成14年、鯖江商工会議所へ入所。現在、経営支援課長をしております。これまで会員事業所の経営支援に加え、地域振興事業の運営や商店街活性化に係る諸事業を担当してきました。小規模事業所を取り巻く経営環境が複雑化している中、商工会議所は、「地域経済活性化を担う重要なセーフティネット機関」として、事業所の課題やニーズに応じたアドバイス及び支援が求められています。一方、診断士は、経営者に対し、「経営とは、経営者とはどうあるべきか」をファシリテートしたり、企業の方向性や戦略を評価し、助言するという大きな幹を支える“根っこ”の部分の強化するためのよきアドバイザーであるべきだと感じています。ネットワークを活用し、事業所支援に厚みが増すことを期待しています。諸先輩方には何卒いろいろとご指導を賜りますようお願いいたします。

化に係る諸事業を担当してきました。小規模事業所を取り巻く経営環境が複雑化している中、商工会議所は、「地域経済活性化を担う重要なセーフティネット機関」として、事業所の課題やニーズに応じたアドバイス及び支援が求められています。一方、診断士は、経営者に対し、「経営とは、経営者とはどうあるべきか」をファシリテートしたり、企業の方向性や戦略を評価し、助言するという大きな幹を支える“根っこ”の部分の強化するためのよきアドバイザーであるべきだと感じています。ネットワークを活用し、事業所支援に厚みが増すことを期待しています。諸先輩方には何卒いろいろとご指導を賜りますようお願いいたします。



中村 則之

この度、入会させて頂きました中村則之です。福井市在住、42歳、福邦銀行で勤務しております。診断士を目指した理由は、仕事を通して関わる企業の役に立ちたいと考えたからです。企業が考える理想と現実とのギャップを正確に掴み、そのギャップと克服すべき課題を企業に理解させ、課題克服、成長に向けて共に考え行動することを目指します。しかし、まだまだ未熟で、理想像にいつ到達できるか見当もつきません。諸先輩方が行ってこられたコンサル内容等、たくさんのお話を聴くことができたらと考えています。また、皆さまのお話を通して、視野を広げたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

この度、入会させて頂きました中村則之です。福井市在住、42歳、福邦銀行で勤務しております。診断士を目指した理由は、仕事を通して関わる企業の役に立ちたいと考えたからです。企業が考える理想と現実とのギャップを正確に掴み、そのギャップと克服すべき課題を企業に理解させ、課題克服、成長に向けて共に考え行動することを目指します。しかし、まだまだ未熟で、理想像にいつ到達できるか見当もつきません。諸先輩方が行ってこられたコンサル内容等、たくさんのお話を聴くことができたらと考えています。また、皆さまのお話を通して、視野を広げたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



仁井 寛喜

平成28年10月に入会させて頂いた仁井です。出身は大阪府で、関西を中心に生活してきましたが、昨年6月に転勤で始めて美浜町に参りました。46才です。資格を取ったのは平成20年で、資材調達の業務に携わっていることから、取引先と原価低減活動を行う上で財務や生産管理の知見を高めたいと考えたのがきっかけです。資格取得後燃え尽きたわけではないのですが、8年間資格を眠らせてしまっていました。しかし、今年協会の更新研修に参加させて頂く中で、診断士の活動が地域の発展に大きく貢献できることを認識し、まずは入会して諸先輩に学びながら、地域とともに成長する診断士を目指したいと思ったものです。サラリーマンをしながらになりますが、経営発達支援計画策定や経営相談会の末席に加わることができるよう精進し、さらに診断士の活動を通じて、福井県各地との縁を深められればと考えておりますので、ご指導よろしくお願ひします。

先と原価低減活動を行う上で財務や生産管理の知見を高めたいと考えたのがきっかけです。資格取得後燃え尽きたわけではないのですが、8年間資格を眠らせてしまっていました。しかし、今年協会の更新研修に参加させて頂く中で、診断士の活動が地域の発展に大きく貢献できることを認識し、まずは入会して諸先輩に学びながら、地域とともに成長する診断士を目指したいと思ったものです。サラリーマンをしながらになりますが、経営発達支援計画策定や経営相談会の末席に加わることができるよう精進し、さらに診断士の活動を通じて、福井県各地との縁を深められればと考えておりますので、ご指導よろしくお願ひします。



竹内 昌彦

平成13年に資格を取得いたしました。私は金融機関に勤務しており、中小企業の経営者の方々とは密接な関係があります。当時、バブル崩壊後、業績悪化に苦しむ経営者が多くいる経済環境下において、金融機関に対してコンサルタント機能の発揮が求められた時代でもありました。そのような状況の中、診断士がクローズアップされ社内でも資格取得に向けた機運が高まり、いろいろな補助・支援をいただきながら資格を取得することができました。当協会には資格取得後、入会させていただいておりましたが、諸般の事情から脱会、今回、機会があって再入会をさせていただくことになりました。今後は、いろいろな先生方々にお知恵、ご指導を頂きながら、金融機関と診断士との密接な関係が構築できればいいなと思っています。金融機関出身の診断士として、金融機関と中小企業の双方の視点から事業再生を図るための助言が出来る診断士を目指します。経験豊富な先生方からの助言・ご指導・ご支援を得ながら、金融機関と診断士との密接な関係構築、人的ネットワークの構築ができればよいと思います。

そのような状況の中、診断士がクローズアップされ社内でも資格取得に向けた機運が高まり、いろいろな補助・支援をいただきながら資格を取得することができました。当協会には資格取得後、入会させていただいておりましたが、諸般の事情から脱会、今回、機会があって再入会をさせていただくことになりました。今後は、いろいろな先生方々にお知恵、ご指導を頂きながら、金融機関と診断士との密接な関係が構築できればいいなと思っています。金融機関出身の診断士として、金融機関と中小企業の双方の視点から事業再生を図るための助言が出来る診断士を目指します。経験豊富な先生方からの助言・ご指導・ご支援を得ながら、金融機関と診断士との密接な関係構築、人的ネットワークの構築ができればよいと思います。